

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立北摂つばさ高等学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	1 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の自己肯定感の獲得と学校生活満足度の向上 2 中途退学率の減少
計画名	心を鍛えるつばさチャレンジ

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2. 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成 (1) 学校経営推進事業の令和2年度の支援校に認定されたことを受け「心を鍛えるつばさチャレンジ」としてコミュニケーション力のある人材を育成する。 ア. 教育相談体制の再構築とカウンセリングの手法を用いた対話主体の生徒支援をおこなう。 イ. 開発的カウンセリングの視点をもって、学校経営推進事業で整備した箱庭を活用して生徒の自己肯定感の育成をすすめる。 ウ. ユニバーサルデザインの授業等でのプレゼンテーション活動を通して生徒の自己発信力をたかめる。 ※学校教育自己診断のアンケート（教員）「教育相談体制が整備」の肯定率をR6年度までに75%以上を維持する。（R1年度59%、R2年度79%、R3年度77%）
事業目標	【心を鍛える】 ・ 学校教育自己診断、スタディーサポート等により生徒の自己肯定感の低さに起因する自己決定力の弱さという課題が見えた。希望の進路実現へつなぐためには自己肯定感の強化に主眼を置いた教育方針の打ち出しが急務である。 ・ 学校体制の方向性：従来の対処療法的な教育相談体制を脱して、すべての生徒が対象の開発的カウンセリング体制を構築することにより、少しのことでは折れない強い心を持った、社会でたくましく生き抜くことができる生徒を育成する。 ・ 生徒・教員の変容：多様な価値観を基にしたさまざまな体験活動をとおして自己有用感を実感する。 ・ わかりやすく魅力的な授業を提供することで、生徒の学びへの自己発信力を強化する。 ・ 人とのつながりを大切にしてコミュニケーション力を獲得する。
整備した 設備・物品	箱庭（1セット）、箱庭置台、箱庭棚、Wi-Fi環境の整備（ルーター、ケーブル）、iPad 20台、iPadの鍵付き保管庫2台、iPadの保護シート
取組みの 主担・実施者	主 担：首席、つばさチャレンジプロジェクト 実施者：全教員を予定
本年度の 取組内容	ア 教育相談体制の再構築とカウンセリング的な手法を用いた、対話を中心とした生徒対応ができるように教職員の意識と行動の変容を促す。 イ 開発的カウンセリングの視点からの生徒の自己肯定感を育成するためにSC、SSWおよび地域と連携した諸活動を通して双方向のコミュニケーション力の育成を図る。

	<p>ウ ユニバーサルデザイン授業等で生徒がプレゼンテーション等の体験活動を通して自己発信力の向上をめざす。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>1 ① 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」「様々な活動を通して自信がもてるようになった」の項目を60%以上。 ② 本校のいじめ防止自己診断アンケート第1象限（他者理解）75%以上、第4象限（他者への無関心）10%以下。 2 成績不振による中退者を前年度比25%減少。</p>
<p>自己評価</p>	<p>1 ① 「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」 (R1:56%) R2年度:62% R3年度:66% R4年度:70%…………… (◎) 「様々な活動を通して自身がもてるようになった」 R2年度:62% R3年度:64% R4年度:62%…………… (◎) ② いじめ防止自己診断アンケート第1象限（他者理解）75%以上、第4象限（他者への無関心）10%以下。 ・第1第1象限（他者理解） R2年度:71% R3年度:77% R4年度:83%…………… (◎) ・第4象限（他者への無関心） R2年度:17% R3年度:10% R4年度:8%…………… (◎) 2 成績不振による中退者を前年度比25%減少。 R2年度:33%減 R3年度:34%減 R4年度:21.5%減…………… (△)</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>令和2年度学校経営推進費の支援校に選ばれ、開発的カウンセリングを中心とした生徒の自己肯定感の向上をめざした取組み「心を鍛えるつばさチャレンジ」を行ってきた。</p> <p>○社会文化コミュニケーションコースをはじめ、様々な授業で生徒がプレゼンテーションソフトを活用することで、自己発信力の育成ができた。特に生徒会執行部の生徒たちは年4回行われる学校説明会で司会・進行を担い、回を重ねるごとにプレゼン能力が向上した。</p> <p>○生徒会が校内に意見箱を設置して生徒の意見集約に取組み、そこから段階的な手順を踏まえて生徒議会から生徒総会へと進ませ、自らの手でより良い学校をつくることのできるような組織づくりができた。</p> <p>○教職員 ICT 研修を実施し、iPad を活用した効果的な教授法についての実践発表および情報共有を行うことで授業力向上につながった。</p> <p>○1人1台端末の導入により、授業ではChrome book を利用することが主となっているが、体育の実技指導でiPadを使い生徒の動作分析をすることで、活動場所で素早く効果的な技術指導を行うことができ、生徒の主體的な学びにつなげることができた。また、数学では生徒の学力向上を目的にiPad内のアプリを積極的に活用し発展的な問題にチャレンジさせ力を伸ばすことができた。</p> <p>○地域の小中学校への出前授業や授業見学をはじめ他校種間での交流を積極的に実施。また、育児中の保護者の方に親子で来校いただき、家庭科の授業「子どもの発達と保育」で乳幼児交流を行った。これまで培ってきた生徒の自己肯定感をさらに向上させることのできる取組みを学校として積極的に実施できるようになった。</p> <p>○教育相談支援委員会が組織として安定し、教育相談事業を充実させることができた。生徒のSC、SSWの利活用が増え、安心して学校に通える教育環境整備が整った。また、箱庭を利用することで新たな気づきを得ることができ、砂に触れることでリラックスできるため生徒のニーズが高まっている。</p> <p>これまでの事業をとおして、学校の教育支援体制が格段に向上した。本校に併設している共生推進教室と関連し、北摂つばさ高校は教育相談が充実した学校であるとの情報発信を行い、相手を思いやる豊かな心の育成に取り組む学校づくりを進めていきたい。1人1台端末と併せてiPadの活用を引き続き充実させ、特に実技教科や部活動での行動分析を積極的に行うことで、チーム力と個別のパフォーマンス向上に発展させていきたい。</p>